

2018年度Q2連結累計期間

決算IR資料

2018年11月5日



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

内容

I. 2018年度Q2累計 連結決算概況

- | | |
|---------------|-----|
| 1. 収支の状況 | P3 |
| 2. 財務の状況 | P10 |
| 3. 資源セグメントの状況 | P14 |

II. 2018年度 感応度 P15

I. 2018年度Q2累計 連結決算概況

1. 収支の状況

(1)総括

○10/23公表比較

上期実績は、ほぼ10/23に公表した業績修正値どおりに着地しました。

○前年同期比較

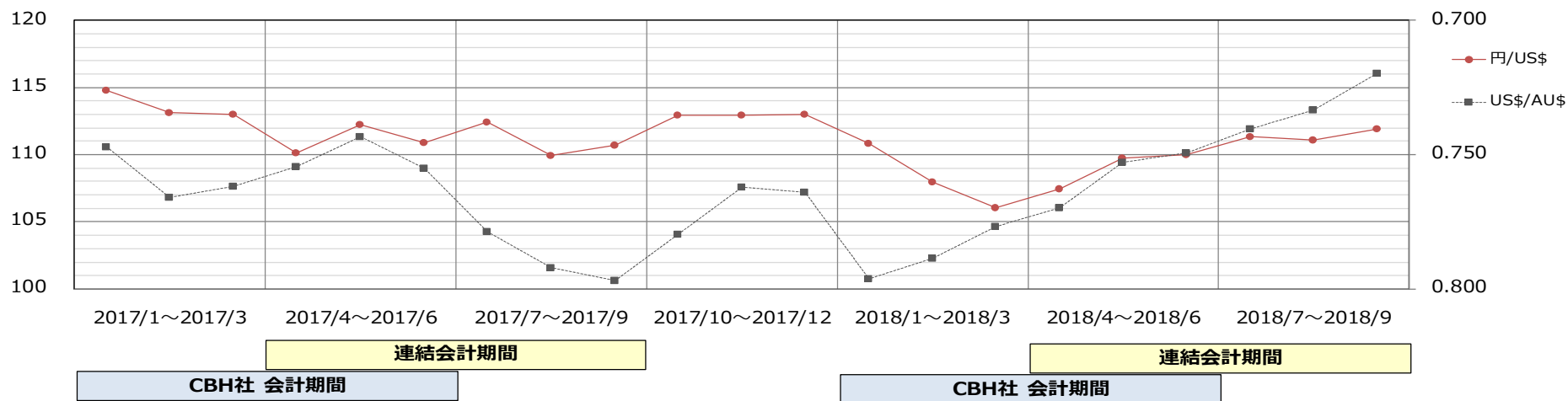
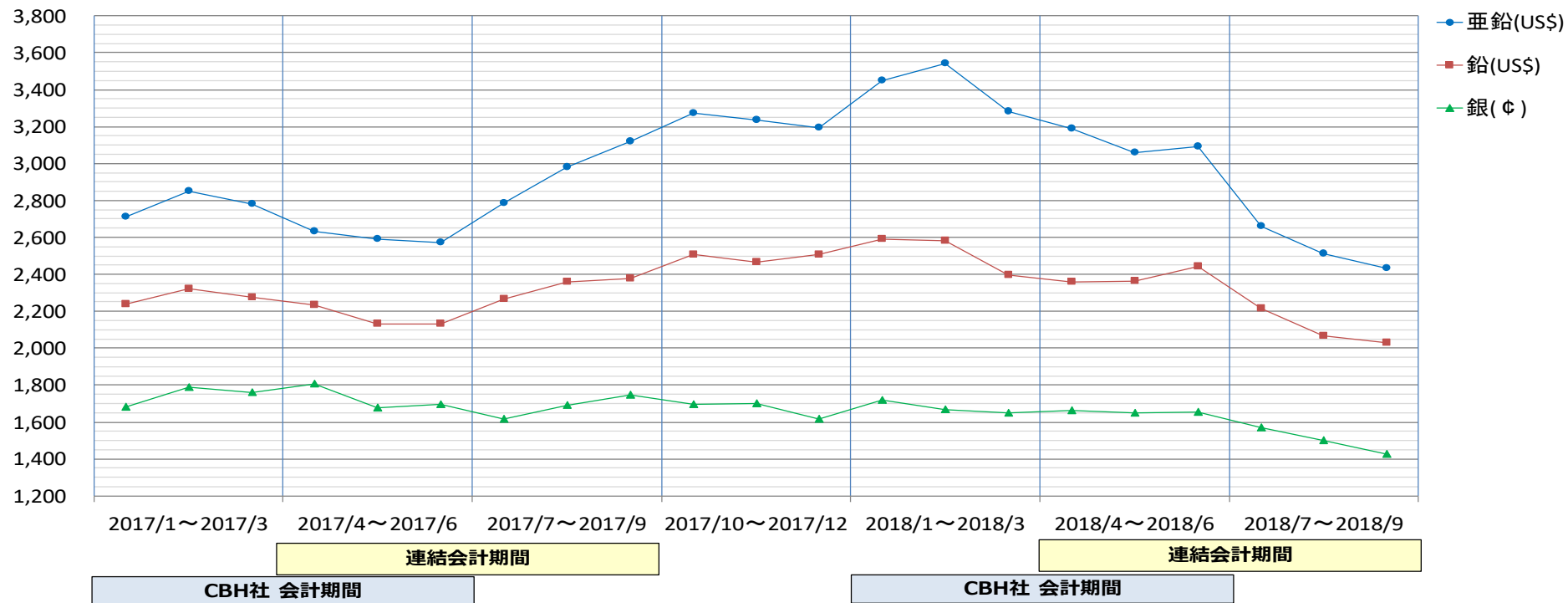
在庫評価損益が前年同期比で35億円悪化したことや鉛・銀の減販などもあり、製錬セグメントが前年同期比55.3億円の減益となりました。また、7月から9月にかけて金属相場が急落したことで期ずれ（子会社決算期ずれの調整）影響が前年同期比25億円悪化したことや、採鉱コスト悪化の影響で資源セグメントが前年同期比30億円減益となりました。以上の結果、連結営業利益は84.8億円減益の△21.5億円、連結経常利益は82.9億円減益の△19.3億円、連結純利益は60.1億円減益の△12.6億円となりました。

単位:億円

	2018/5/10 上期当初計画	2018/10/23 上期業績修正	上期実績
連結売上高	660	590	585
連結営業利益	37.0	△21.0	△21.5
連結経常利益	36.0	△19.0	△19.3
連結純利益	29.0	△12.0	△12.6

1. 収支の状況

(2)市況推移



1. 収支の状況

(3)Q2累計の状況(収支)

		上期(10/23公表)	Q2累計	差(実額)	差(%)
売上高(億円)		590	585	△5	△1
営業利益(億円)	製錬	△35.0	△35.5	△0.5	—
	資源	△2.0	△2.0	△0.0	—
	電子部材	3.0	3.1	0.1	2
	環境・リサイクル	8.0	7.8	△0.2	△2
	その他	2.0	0.9	△1.1	△53
	調整額	3.0	4.2	1.2	39
	計	△21.0	△21.5	△0.5	—
経常利益(億円)		△19.0	△19.3	△0.3	—
純利益(億円)		△12.0	△12.6	△0.6	—
EBITDA(億円)		10.5	9.0	△1.5	△14

1. 収支の状況

(4)前年同期比較(市況・生産量)

			前年同期	Q2累計	差(実額)	差(%)
市況	亜鉛(米\$/t)		2,780	2,824	44	2
	鉛(米\$/t)		2,249	2,245	△4	0
	銀(米\$/toz)		17.0	15.8	△1.3	△7
	円/米\$		111.1	110.3	△0.8	△1
	米\$/豪\$(1-6月)		0.755	0.774	0.019	3
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)		44.9	47.8	2.9	6
	鉛製品(千t)		50.1	44.8	△5.3	△11
	電気銀(t)		189	153	△36	△19
資源セグメント CBH社関連(1-6月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	162	291	129	80
		ラスプ	343	368	25	7
		計	505	659	154	30
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	18.0	25.1	7.1	40
		ラスプ	24.8	27.9	3.1	13
		計	42.8	53.1	10.3	24
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	11.1	13.0	1.9	17
		ラスプ	13.0	13.7	0.7	5
		計	24.1	26.7	2.6	11

1. 収支の状況

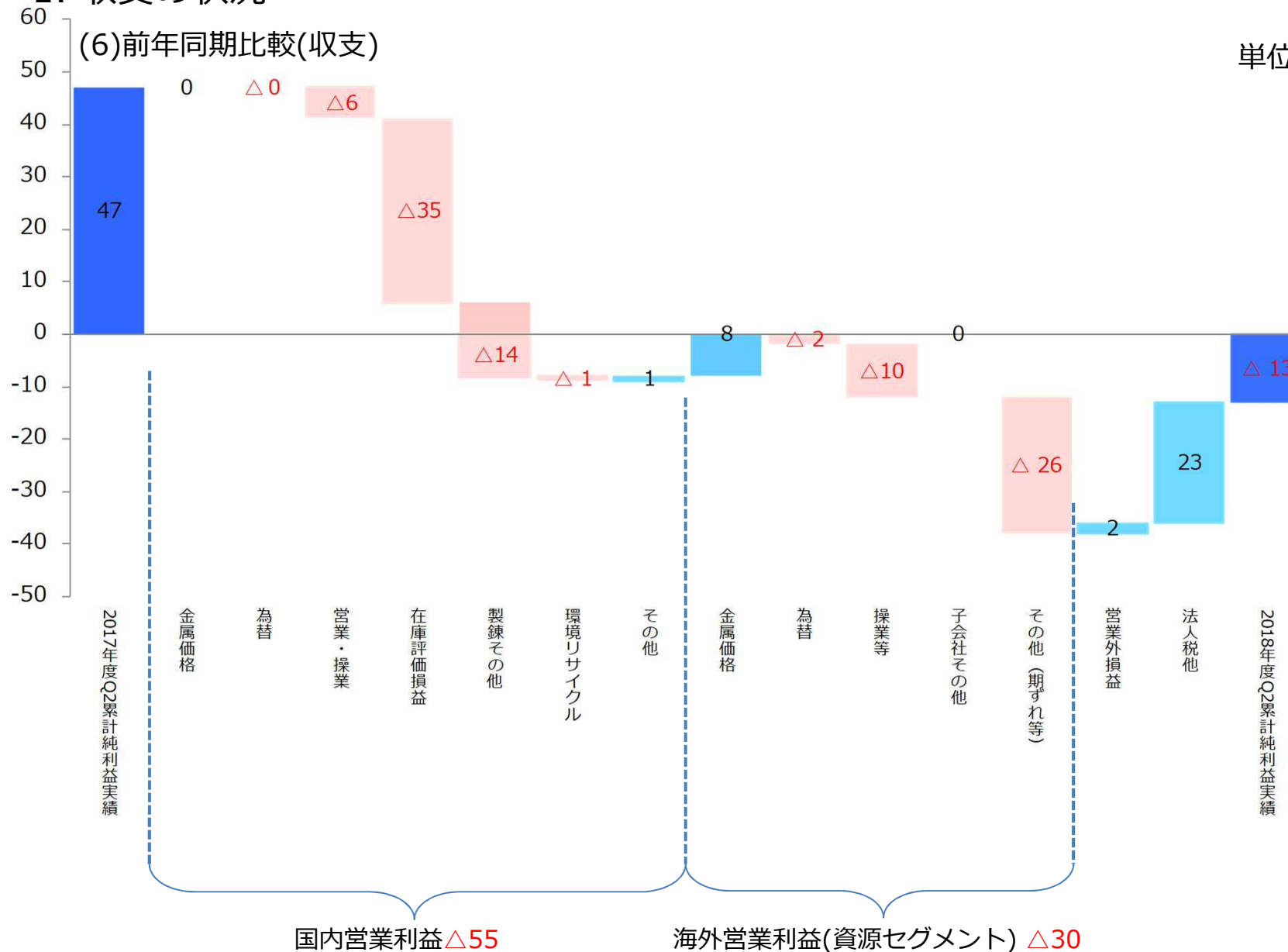
(5)前年同期比較(収支)

		前年同期	Q2累計	差(実額)	差(%)	
収支	売上高(億円)	639	585	△54	△8	
	営業利益(億円)	製錬	19.8	△35.5	△55.3	—
		資源	28.0	△2.0	△30.0	—
		電子部材	3.3	3.1	△0.3	△9
		環境・リサイクル	9.1	7.8	△1.3	△14
		その他	3.7	0.9	△2.8	△75
		調整額	△0.6	4.2	4.8	—
		計	63.3	△21.5	△84.8	—
	経常利益(億円)	63.6	△19.3	△82.9	—	
	純利益(億円)	47.5	△12.6	△60.1	—	
EBITDA(億円)	91.8	9.0	△82.8	△90		

1. 収支の状況

(6)前年同期比較(収支)

単位：億円



1. 収支の状況

(7) 四半期単位比較

2018年度		Q1実	Q2実	Q3	Q4	累計	
売上高(億円)		307	278			585	
営業利益(億円)	製錬	在庫評価損益	5.8	△26.3			△20.5
		上記以外	△1.7	△13.3			△15.0
		計	4.1	△39.6			△35.5
	資源	1.5	△3.5			△2.0	
	電子部材	1.5	1.6			3.1	
	環境・リサイクル	5.3	2.6			7.8	
	その他	1.4	△0.5			0.9	
	調整額	2.2	1.9			4.2	
	計	16.0	△37.5			△21.5	
経常利益(億円)		15.7	△35.0			△19.3	
純利益(億円)		12.2	△24.8			△12.6	
EBITDA(億円)		30.7	△21.7			9.0	

(ご参考)

2017年度	Q1	Q2	Q3	Q4	累計
売上高(億円)	288	351	377	320	1,336
営業利益(億円)	8.8	54.6	51.7	16.0	131.0
経常利益(億円)	9.5	54.0	51.0	17.0	131.6
純利益(億円)	7.4	40.1	41.7	14.5	103.7

2. 財務の状況

(1)貸借対照表(資産の部)

単位：億円

			2018年3月末 実績	2018年9月末 実績	差(実額)
流動資産	現金・預金		138	111	△27
	受取手形・売掛金		201	156	△45
	たな卸資産		419	351	△68
	その他		19	59	40
	計		778	677	△101
固定資産	有形固定資産		409	408	△1
		内CBH社関係	96	96	0
		(豪\$百万表示)	(109)	(119)	(10)
	無形固定資産		125	124	△1
		内CBH社関係 (豪\$百万表示)	124 (141)	123 (151)	△1 (10)
	投資その他		60	67	6
	計		595	599	4
資産 合計		1,373	1,276	△97	

2. 財務の状況








(1)貸借対照表(負債・純資産の部)

単位：億円

			2018年3月末 実績	2018年9月末 実績	差(実額)
負債の部	支払手形・買掛金		77	63	△14
	有利子負債	CP	80	60	△20
		短期借入金	115	110	△5
		長期借入金	332	319	△12
		有利子負債計	526	489	△37
	その他負債		145	149	4
	計		749	701	△47
純資産の部	株主資本	資本金	146	146	0
		資本剰余金・自己株式	98	98	0
		利益剰余金	252	223	△30
		株主資本 計	497	467	△30
	その他包括利益累計額		127	107	△20
	計		624	574	△49
負債・純資産 合計			1,373	1,276	△97

2. 財務の状況

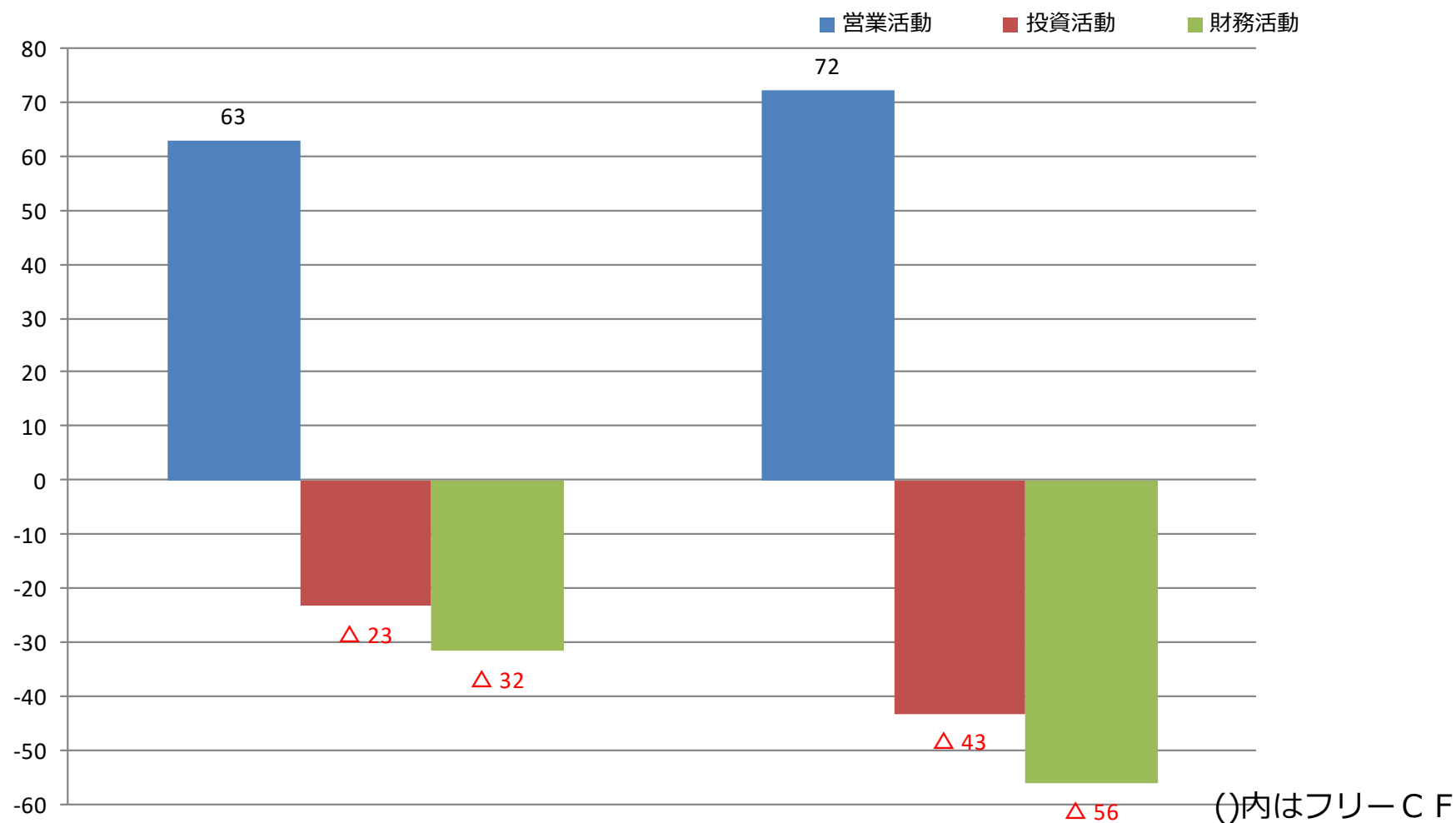
(2)主要財務指標の変化

	前年同期		Q2累計	評価
自己資本比率	42.4%		45.0%	改善
D/Eレシオ	0.9倍		0.9倍	横ばい
D/EBITDAレシオ (年換算)	2.8倍		27.2倍	悪化
純利益/自己資本(ROE) (年換算)	17.6%		△4.2%	悪化
純利益/売上高	7.4%		△2.2%	悪化
売上高/総資産	1.0回転		0.9回転	悪化
総資産/自己資本	2.3倍		2.1倍	悪化

2. 財務の状況

(3) キャッシュ・フローの推移

単位：億円



前年同期 +8(計+40)

Q2累計実績 **△27**(計+29)

3. 資源セグメントの状況

前年同期比△30億円

⇒内、CBH社営業利益 △4.6億円

(内、市況等他律要因 +5.3億円)

①エンデバー鉱山

前年同期比△2.2億円(内、市況等他律要因 +3.1億円)

他律要因を除くと5.3億円の減益→粗鉱品位悪化に伴う採鉱コスト高

②ラスプ鉱山

前年同期比 △3.5億円(内、市況等他律要因 +2.3億円)

他律要因を除くと5.8億円の減益→出荷の下期繰り越しと粗鉱品位（銀）の悪化

③期ずれ等

前年同期比△25.4億円⇒主に決算期ずれの調整の影響。前年7～9月は金属相場急騰によるプラス影響、当期7～9月は金属相場急落によるマイナス影響を取り込んだことが悪化の主因

利益(億円)		前年同期	Q2累計	差(実額)	
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	5.0	2.8	△2.2	①
	ラスプ鉱山	13.0	9.5	△3.5	②
	その他	0.2	1.2	1.0	
	計	18.2	13.6	△4.6	
その他（期ずれ等）		9.8	△15.6	△25.4	③
資源セグメント利益		28.0	△2.0	△30.0	

II. 2018年度 感応度

	変動幅	2017年度試算		2018年度試算		増減	
		連結営業利益影響額	*内CBH	連結営業利益影響額	*内CBH	連結営業利益影響額	内CBH
亜鉛	\$10/t	¥67百万	¥46百万 (豪\$560千)	¥50百万	¥34百万 (豪\$410千)	△¥17百万	△¥12百万 (△豪\$150千)
鉛	\$10/t	¥37百万	¥31百万 (豪\$370千)	¥28百万	¥23百万 (豪\$280千)	△¥9百万	△¥8百万 (△豪\$90千)
円/米\$	1円/米\$	¥80百万	-	¥64百万	-	△¥16百万	-
米\$/豪\$	1%	豪\$2.9百万	同左	豪\$3.7百万	同左	豪\$0.8百万	同左

* 円換算は82.0円/豪\$を使用

尚、CBH社を連結する際に円/豪ドルレートを使用して円換算を行う。したがって、CBH社の豪ドル建損益水準は、連結段階では、最終的に円/豪ドルレートにより決定される。

年内精鉛生産量の1/3につきキャップとフロアーを固定したオプションを契約しており、市況感応度はキャップ－フロアー内の市況を前提としたもの。